

令和6年（2024年）の福徳岡ノ場の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

気象衛星ひまわりによる観測では、噴火は認められませんでした。
海上保安庁、または同庁の協力を得て気象庁が10月、11月及び12月に実施した観測では、福徳岡ノ場の周辺で変色水が認められました。

○ 噴火警報・予報の状況、2024年の発表履歴

2024年中変更なし	噴火警報（周辺海域） 火山現象に関する海上警報（周辺海域警戒）
------------	------------------------------------

○ 2024年の活動概況

気象衛星ひまわりによる観測では、噴火は認められませんでした。
海上保安庁、または同庁の協力を得て気象庁が実施した上空からの観測結果によると、10月、11月及び12月に緑色の変色水が確認されました。

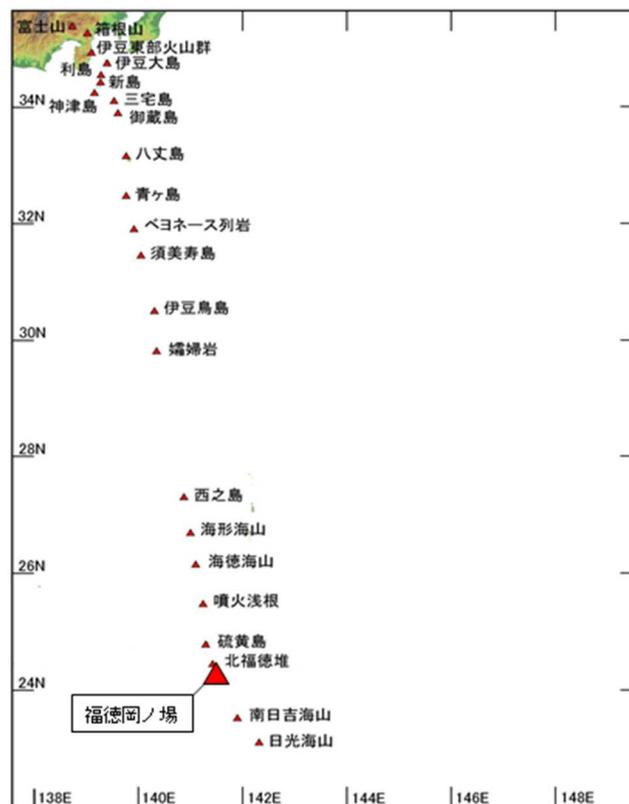


図1 福徳岡ノ場 伊豆・小笠原諸島の活火山分布と福徳岡ノ場
地図は、日本活火山総覧（第4版）から引用。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
 本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>
 この資料は気象庁のほか、海上自衛隊、海上保安庁及び第三管区海上保安本部のデータも利用して作成しています。

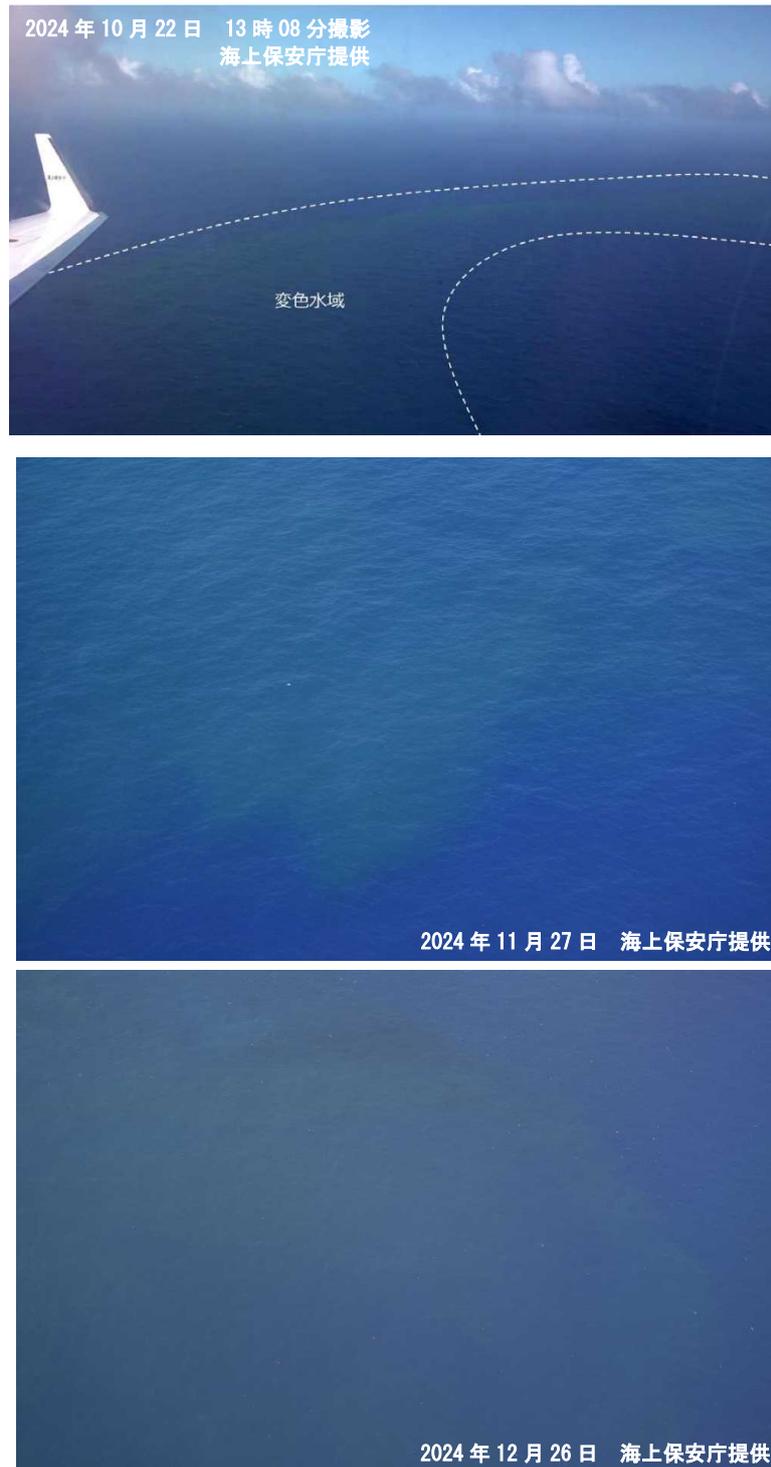


図2 福徳岡ノ場 変色水の状況

上段、中段及び下段はそれぞれ10月22日、11月27日及び12月26日に実施した上空からの観測結果を示します。

- ・海上保安庁が10月22日に実施した観測によると、福徳岡ノ場の周辺の半径約6kmの範囲に緑色の変色水域が渦巻状に分布していました。
- ・海上保安庁及び同庁の協力を得て気象庁が11月27日に実施した観測では、福徳岡ノ場の周辺にやや濃い緑色の変色水が認められました。
- ・海上保安庁が12月26日に実施した観測では、福徳岡ノ場の周辺に薄い緑色の変色水が認められました。

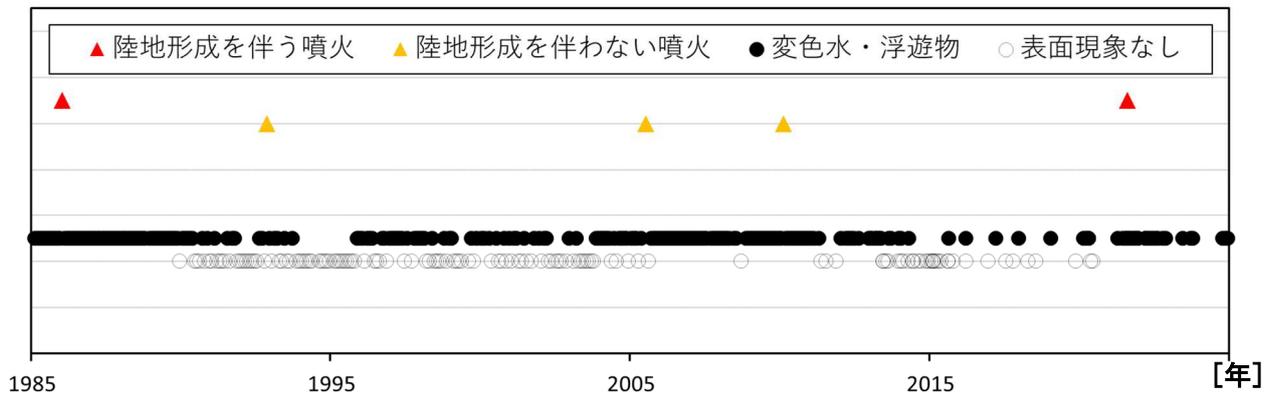


図3 福徳岡ノ場 1985年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。●は変色水域や浮遊物が認められた観測、○は変色水域を含め特段の表面現象が認められなかった観測、▲は陸地形成を伴う噴火が認められた観測、△は陸地形成を伴わない噴火が認められた観測を示します。

海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊、気象庁、漁船及び報道機関等の観測による。

- ・ 2021年8月13日に海底噴火が確認された福徳岡ノ場では、過去にも数年間隔で海底噴火が確認されています。発生する噴火には、陸地を形成するような規模の噴火と、陸地を形成しないそれよりも規模の小さな噴火があります。
- ・ 1986年にも噴火が発生し、新島を形成しましたが、海面上に姿を現す顕著な噴火は1月18日～21日の数日でした。その後、同年3月26日には新島は消滅しています。
- ・ 2010年2月3日に小規模な海底噴火、浮遊物、変色水域が認められた後も、長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が断続的に認められていました。